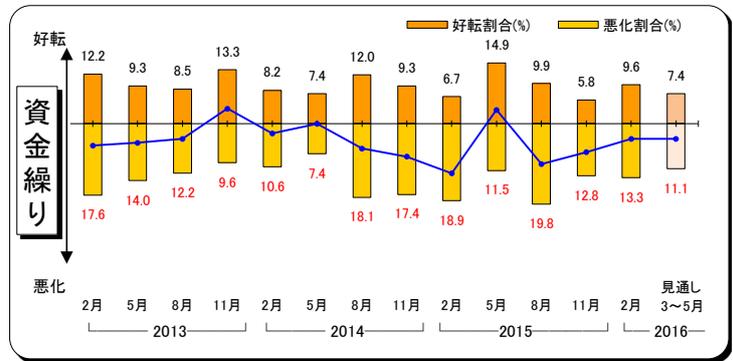
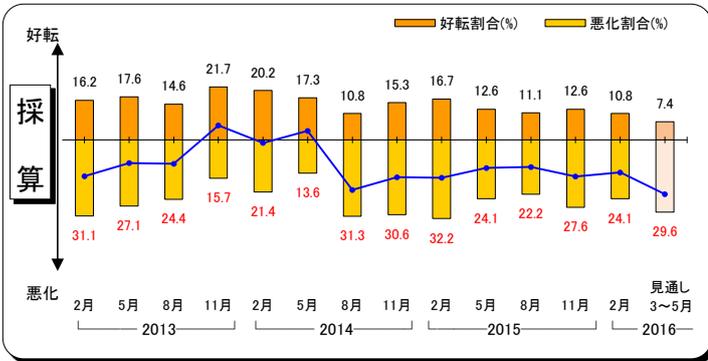
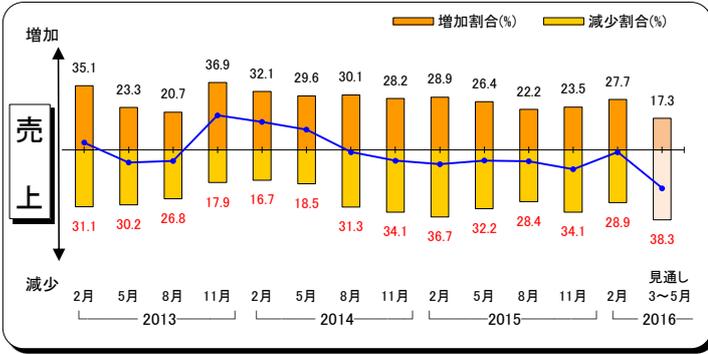
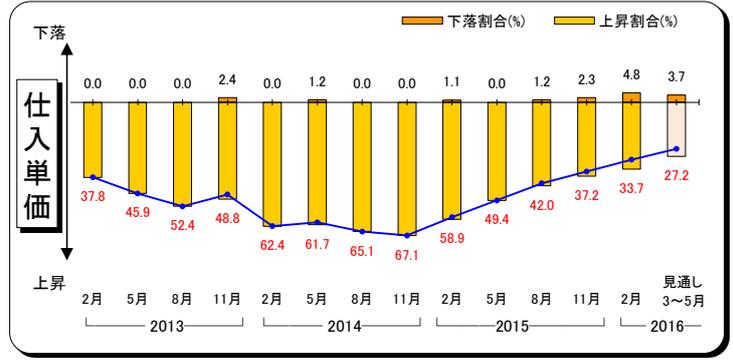
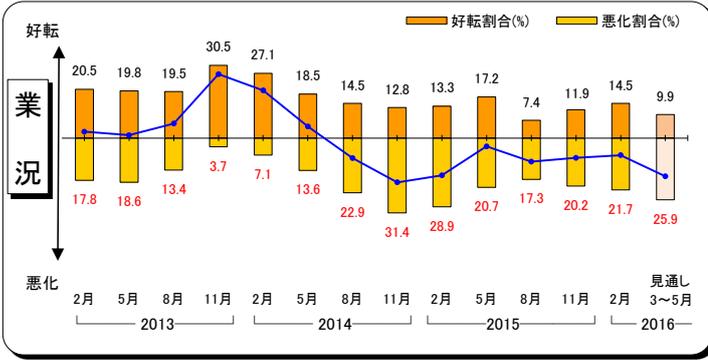


【建設業】①



【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	公共工事の発注件数が減少した。
土木建築工事業	受注額のアップ。
土木建築工事業	若手の人材不足。
土木建築工事業	日銀のマイナス金利の影響で、好転及び売上上昇の見込みありと考える。
土木建築工事業	見積件数の割に元請の査定が厳しく受注につながらない。社会保険加入により業績が悪化。先行きは不安である。
土木建築工事業	人手不足は深刻な問題ですが、将来的に建設業界の好調が継続することはないので、職員の採用を一気に増やすことはできません。
とび工事業	受注量はやや上向きですが、受注額が下がる一方で、この状況から抜けられない。また、人材不足から人件費の増加や外注費の増加を余儀なくされ、受注数と採算があわない。
管工事業	ゼネコンは増収増益だが、サブコンはまだその域ではない。オリンピック投資で賑わっているが、依然として利益環境は低調である。
管工事業	先行は不透明。
管工事業	仕事量を増加させて仕入単価上昇を吸収できるかで採算が変化する。人材が不足しているため、消化量にも大きな増大は難しい。外注費の単価上昇が今後も続くことで現状を維持することが課題となる。売上につながる単価を考えて、発注者側が行ってほしい。
冷暖房設備	設備投資の状況はまだまだ厳しく先が見えない。
冷暖房設備工事業	求人を出しているが、今年は応募が減少。是非、人材がほしいが、いろいろなサイトから声がかかるが、効果はどうか、疑問点も多い。
給排水・衛生設備工事業	仕入価格の上昇、雇用状況（人手不足による人件費の上昇）等経営を圧迫する要素が多く、地場・中小零細企業がいきいきと活動できる経済状況が望まれます。顧客様の日常生活密着のため、受注は堅調です。